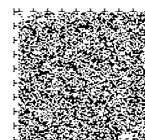


第3章

安全で円滑な大会運営



第1部 東京都運営本部の設置

- 組織委員会は大会運営本部及び会場運営本部を設置し、各開催都市は観客の交通輸送、セキュリティ、ファンゾーン等の開催都市業務を実施するため、開催都市運営本部を設置し、互いに連携して一体的に大会を運営した。
- 東京都運営本部には、開催都市業務を担う各運営担当に加え、全体調整等を行う開催都市統括担当を設置し、組織委員会や関係機関等と連携しながら、開催都市業務を実施するとともに、組織委員会の大会運営を支援した。
- 東京都運営本部では、平常時において各運営担当が確実かつ迅速に業務を行うとともに、事案発生時においても適時適切に対応した。
- 大会期間中の職員体制は、RWC 担当職員に加え、東京 2020 大会に運営ノウハウを継承していくため、オリンピック・パラリンピック準備局を中心に、関係各局も含めた体制とし、経験を共有できる体制とした。

1 組織委員会と各開催都市との一体的な体制の構築

RWC2019 において、組織委員会は、試合の運営、選手の輸送、各チームへのサービス等の大会を運営する役割を担う。一方、各開催都市は、試合会場への観客誘導等の交通・セキュリティ対策等を担う。運営に当たっては、組織委員会と各開催都市が連携し、一体的に大会を運営していくことが不可欠である。

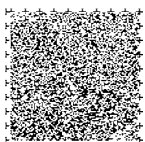
そこで、各試合会場で統一した運営体制を構築するため、組織委員会と各開催都市とが協議し、全試合会場共通の基本的な運営体制が構築された。

(組織委員会と各開催都市の体制)

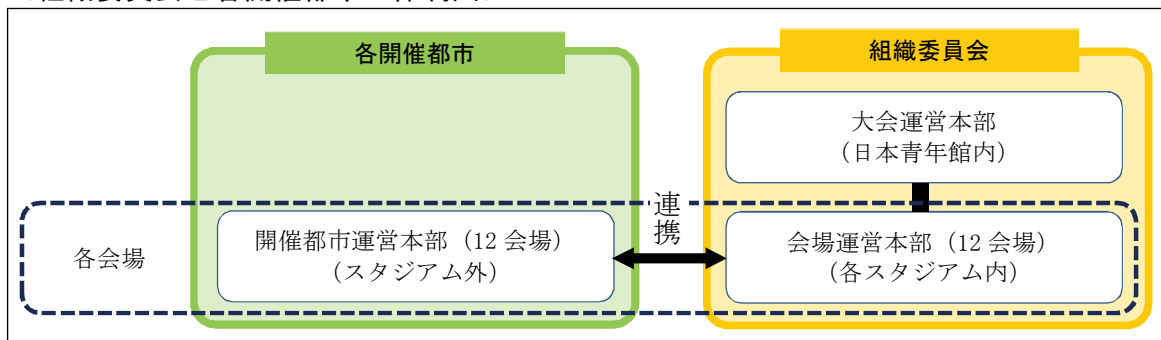
- ・ 組織委員会は、試合の中止や延期等、大会運営上の重要事項を決定する「大会運営本部（トーナメントヘッドクォーター）」を組織委員会内（日本青年館）に、各試合会場の管理運営を担う「会場運営本部」を各スタジアム内に設置
- ・ 各開催都市は、開催都市業務を実施するため、「開催都市運営本部」をスタジアム外に設置

(各試合会場統一の体制)

- ・ 各試合会場では、組織委員会が「会場運営本部」にイベントデリバリーマネージャーを、各開催都市が「開催都市運営本部」に開催都市統括を設置し、相互に連携
- ・ 両者間の連絡・調整を円滑に実施するため、「開催都市運営本部」に組織委員会職員（開催都市運営マネージャー）を配置
- ・ 加えて、特に交通輸送、セキュリティについては、密に連携を図る必要があることから、組織委員会の「会場運営本部」に開催都市職員をそれぞれ配置



<組織委員会と各開催都市の体制図>



2 訓練等による運営体制の検証

会場ごとの固有の状況に応じた体制を構築するため、東京会場においては、検討してきた運営体制を検証することを目的に、組織委員会とともに、輸送及び警備に関する突発事案（荒天、鉄道の運転見合わせ）に関し、2回の図上訓練を実施した。

また、東京消防庁が、RWC2019などの国際的なスポーツイベントにおけるテロ災害を想定して東京スタジアムで実施した「東京消防庁大規模テロ総合訓練」に組織委員会とともに参画し、情報連絡体制の検証を行った。

図上訓練：2019（令和元）年6月17日（月）（第1回）、7月1日（月）（第2回）

東京消防庁大規模テロ総合訓練：同年7月4日（木）



東京消防庁大規模テロ総合訓練



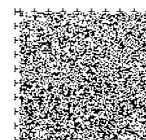
訓練時における東京都運営本部

3 都の運営体制

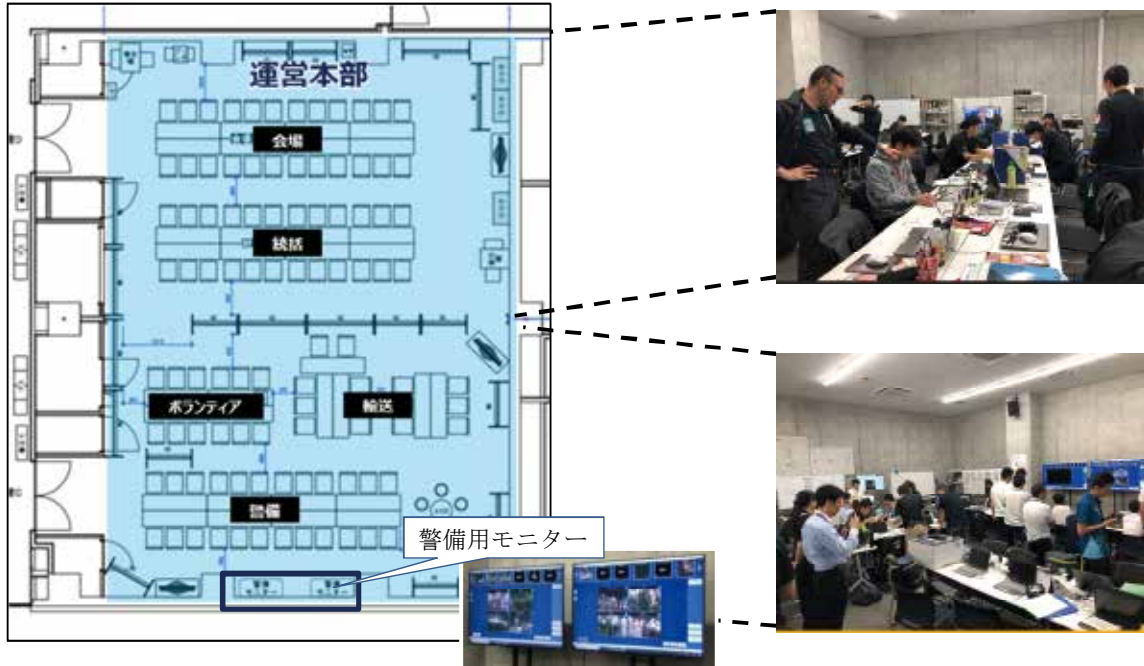
都は、各開催都市が設置する開催都市運営本部として、東京都運営本部を設置した。東京都運営本部は、交通輸送、セキュリティ、ファンゾーン等の開催都市業務を直接担う各運営担当と、組織委員会との連絡・調整や運営担当間の情報共有等の全体調整を行う開催都市統括担当による構成とした。

また、地震や台風などの緊急時等に円滑な対応ができるよう、組織委員会に加え、警視庁、東京消防庁等の関係機関や地元3市、都の防災担当部署（総務局総合防災部）等と事前に連絡手段、対応方法等を調整し、事案発生時に速やかに連携が取れる体制とした。

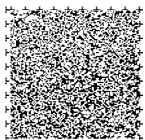
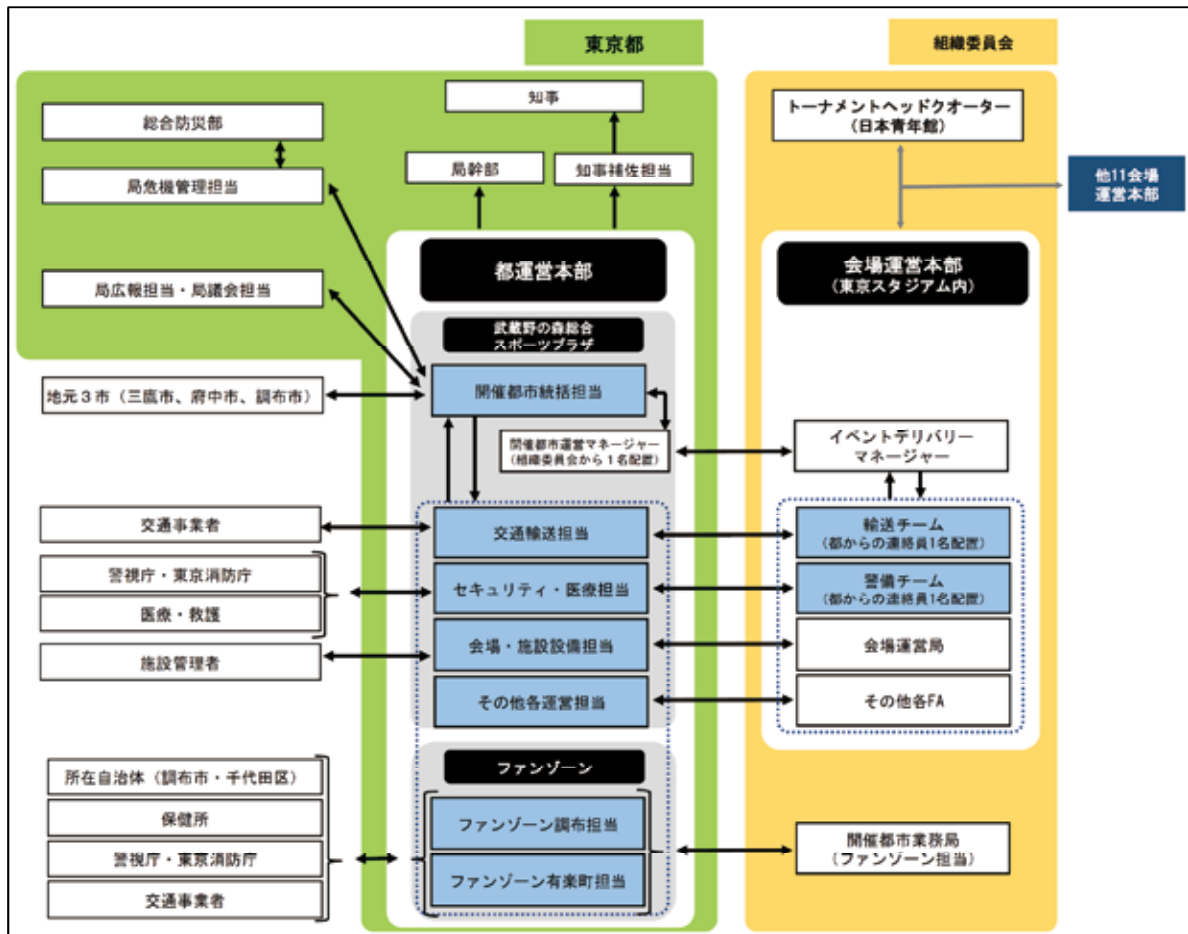
東京スタジアムでの試合日（8日間）については、試合会場及びラストマイルに近接する武蔵野の森総合スポーツプラザ内や、各ファンゾーン内に執務スペースを設け、開催都市業務に対応した。さらに、東京スタジアムで試合が行われていない日も含め、大会期間（44日間）を通じて、本部機能を設け、開催都市業務を実施するとともに、組織委員会の大会運営を支援した。



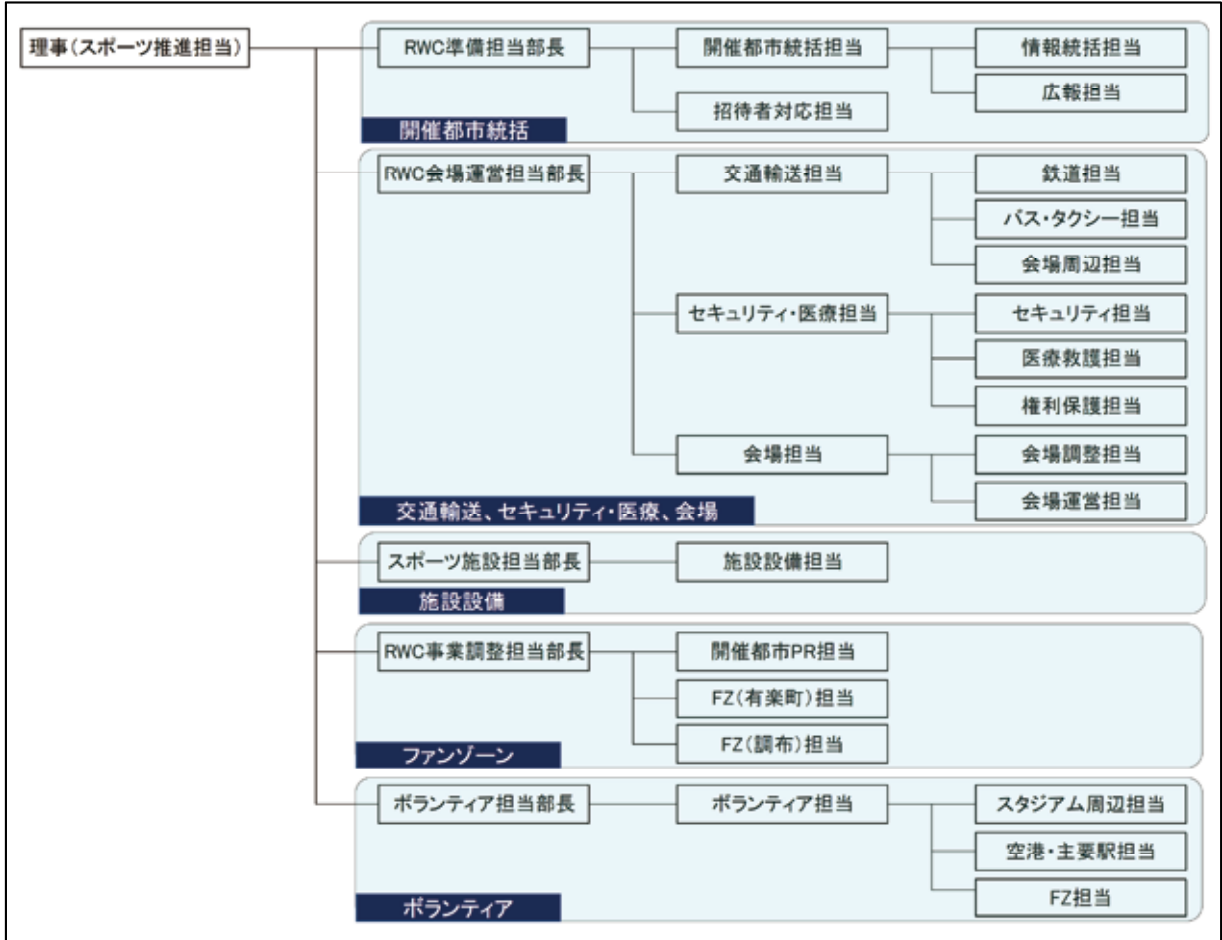
＜武蔵野の森総合スポーツプラザ内運営本部＞



＜大会期間中における運営体制（東京スタジアムでの試合日の体制）＞

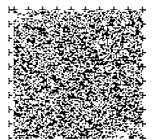


<大会期間中における組織体制>



<大会期間中における各運営担当と主な業務内容>

運営担当	業務内容
開催都市統括担当	<ul style="list-style-type: none"> 各運営担当からの情報収集 各運営担当への情報提供 メディアからの問合せ対応 等
招待者対応担当	<ul style="list-style-type: none"> 都内及び被災地観戦招待対応 等
交通輸送担当	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道、バス等の交通事業者との連絡調整 ラストマイル、試合会場周辺の状況把握 おもいやりシャトル・送迎車両の運行対応 等
セキュリティ・医療担当	<ul style="list-style-type: none"> ラストマイル等における雑踏警備、交通誘導等の自主警備 傷病者等への対応 組織委員会と連携したアンブッシュ（権利保護）対応 等
会場担当	<ul style="list-style-type: none"> 大会において使用する施設等の利用に係る施設管理者等との調整 ラストマイル及びその周辺の清掃・衛生業務 託児サービス及び授乳・おむつ交換スペースの運営 等
施設設備担当	<ul style="list-style-type: none"> 試合会場内に整備した仮設物（仮設トイレ等）の保守管理 等



開催都市 PR 担当	<ul style="list-style-type: none"> ・ スペクテータープラザ内における“和”のおもてなし体験 ・ ペDESTリアンデッキ上の総合インフォメーションセンターの設置 ・ ホストシティパフォーマンスの調整 等
ファンゾーン担当	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファンゾーン（多摩会場、区部会場）の運営 ・ 出展者（区市町村、大使館、スポンサー、開催都市等）との調整 等
ボランティア担当	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアの管理・運営業務 ・ ボランティアの出欠、活動指示、問合せ対応 等

4 東京都運営本部におけるオペレーション

交通輸送、セキュリティ、ファンゾーン等の各運営担当が確実かつ迅速に業務を行うことができるよう、事案に応じて、次のとおり対応した。

(1) 平常時

- ・ 各運営担当が、開催都市の役割分担に応じて、交通輸送、セキュリティ、ファンゾーン等の運営を実施した。
- ・ 開催都市統括担当は、各運営担当内で使用するトランシーバーや、業務用情報共有スマートフォンアプリ等を活用し、音声や文字、写真等による情報の収集を行い、全体の運営状況を把握した。
- ・ また、開催都市統括担当は、収集した情報を各運営担当に速やかに共有するため、業務用情報共有アプリを活用し、情報を発信した。発信に当たっては、情報の内容に応じて、全担当者又は一部の担当者など必要な範囲を設定した。加えて、各運営担当が全体の運営状況も把握できるよう、収集した情報を東京都運営本部内のホワイトボードに記載した。
- ・ 組織委員会の会場運営本部と東京都運営本部が相互に状況を把握できるよう、事前に計画した以下の事項について情報共有した。



ホワイトボード

【組織委員会 ⇒ 都】

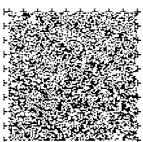
開場、試合開始、来場者数、閉場等

【都 ⇒ 組織委員会】

会場周辺駅やラストマイル、ファンゾーンの混雑状況等

(2) 事案発生時

- ・ 観客や試合運営への影響等、事案の軽重に応じて、組織委員会等とも連携して対応した。
- ・ 「試合日における事案発生時の主な事例とオペレーションの考え方」を基本とし、事案の状況に応じ、適宜、柔軟に対応した。



＜試合日における事案発生時の主な事例とオペレーションの考え方＞

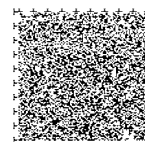
主な事例		オペレーションの考え方
1-1	ラストマイルにおける迷子の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・現場判断による対応 ・開催都市統括は、各運営担当内のトランシーバーや業務用情報共有アプリにより情報収集 ※理事（スポーツ推進担当）に共有 ・発生した事案の大きさに応じて、開催都市統括から各運営担当へ業務用情報共有アプリで情報共有
1-2	負傷者・急病人等の発生	
1-3	都市装飾の破損	
1-4	観客の滞留発生	
1-5	近隣住民からの要望・苦情等 (ラストマイルにおけるゴミ散乱等)	
2-1	人身事故による最寄駅での電車運休	<ul style="list-style-type: none"> ・開催都市統括、理事（スポーツ推進担当）に報告の上、対応 ※原則、局幹部に報告 ・開催都市統括から各運営担当へ業務用情報共有アプリで情報共有
2-2	倒木等によるラストマイル通行障害	
2-3	ラストマイル周辺でのぼや・火災の発生	
3-1	雷雨に伴う試合スケジュール変更	<ul style="list-style-type: none"> ・組織委員会の判断等を踏まえ、局幹部へ報告の上、対応 ※発生した事案の大きさに応じて、知事に報告 ・開催都市統括から各運営担当へ業務用情報共有アプリで情報共有 ・必要に応じて広報対応
3-2	大型台風の上陸予報に伴う試合スケジュールの変更	
4-1	首都直下地震発生（震度6以上）	<ul style="list-style-type: none"> ・大会関係者や観客の避難等、必要な対応を組織委員会と実施するとともに、都災害対策本部等と連携し、適切に対応 ・必要に応じて広報対応
4-2	大規模テロの発生	
4-3	群衆事故による死傷者の発生	

【具体的対応事例】

- ・ 傷病者発生時には、必要に応じて組織委員会や警視庁、東京消防庁等の関係機関と連携し、速やかに情報伝達等を行うことで、迅速に対応した。
- ・ 台風19号の発生に伴うボランティアの活動内容やファンゾーンの実施について、最新の気象情報や公共交通機関の状況を把握し、関係自治体とも調整の上、対応した。

5 台風19号への対応

台風19号は、2019（令和元）年10月6日（日）に発生し、12日（土）に関東甲信越・東北地方に直撃し、広い範囲で大雨、暴風、高波、高潮となった。大雨の影響で、各地で河川の氾濫が相次いだほか、土砂災害や浸水害、これらによる人的被害や住家被害、ライフラインへの被害等、各地に甚大な被害をもたらした。

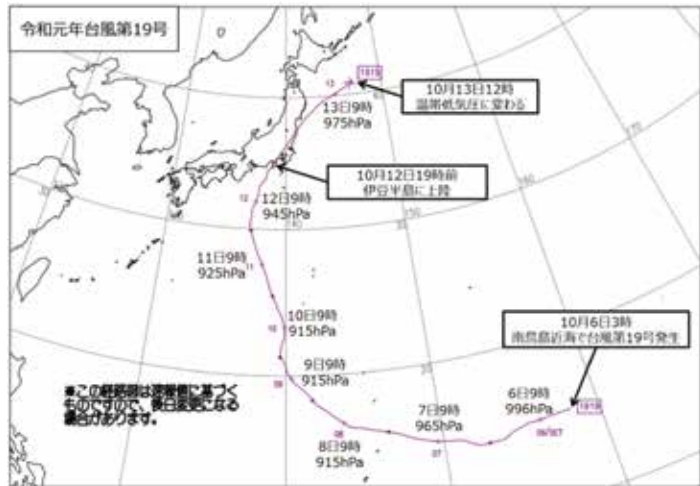


都は、10日（木）に東京都応急対策本部を、12日（土）には東京都災害対策本部を設置し、非常配備態勢で対応を行った。

RWC2019では、台風19号の影響により、12日（土）及び13日（日）に予定されていた3試合が中止となった。

台風の上陸が東京スタジアムの試合日と重ならなかったため、東京会場においては試合スケジュールへの影響はなかったが、同日にはファンゾーン開催やボランティア活動が予定されていた。

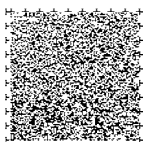
特に、13日（日）には、日本代表の決勝トーナメント進出がかかる試合が予定されており、都民・国民の関心が高まっていたため、迅速な対応や情報発信が求められていた。東京都運営本部においては、次の表のとおり、組織委員会の試合開催の判断や、最新の気象情報、公共交通機関の状況の把握、関係自治体との調整状況等も踏まえ、対応した。



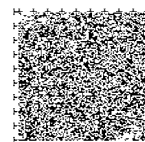
気象庁発表資料「台風第19号による大雨、暴風等」

<主な対応>

	台風19号の状況 (気象庁の発表等)	都及び組織委員会の対応等
10月6日(日)	台風19号が南鳥島近海で発生	
10月7日(月)	大型で非常に強い台風は、 <u>12日(土)から13日(日)にかけて本州、四国、九州にかなり接近するおそれがあり、全国的に広い範囲で暴風や警報級の高波や大雨となる可能性あり</u>	【都】 台風の動向を注視し、西日本で開催される12日(土)の福岡、13日(日)の東大阪、熊本の試合開催判断が及ぼす影響等について検討
10月8日(火)	大型で猛烈な勢力の台風は、 <u>12日(土)から13日(日)にかけて西日本から東日本にかなり接近し、その後、北東に進路を変えて、速度を上げながら北日本に進むおそれがあり、全国的に広い範囲で暴風や警報級の高波や大雨となる可能性あり</u>	【都】 台風19号進路予測の変更(東日本への接近見込み)を受け、ファンゾーン及びボランティア活動への直接的影響や、東日本で開催される12日(土)の横浜、豊田、13日(日)の横浜(日本対スコットランド)の試合開催判断が及ぼす影響等についても検討
10月9日(水)	大型で猛烈な台風は、非常に強い勢力を保ったまま、 <u>12日(土)から13日(日)にかけて西日本から東日本に接近または上陸するおそれがあり、その後、速度を上げながら北日本に進む見込み。台風が接近する地域では、暴風や高波、大雨、高潮のおそれあり</u>	【都】 11日(金)から13日(日)までのファンゾーンの開催可否について、気象予報や交通機関の運行状況等を踏まえ、 <u>各開催日前日の22時まで</u> に判断し、HP、SNSで公表することをプレス発表



10月10日(木)	<p>大型で猛烈な台風は、非常に強い勢力を維持し、<u>12日(土)から13日(日)にかけて西日本から東日本にかなり接近し、上陸するおそれ</u>。12日(土)から13日(日)にかけて西日本や東日本、北日本で猛烈な風が吹き、大雨となる見込み</p>	<p>【組織委員会】12:00頃、以下を発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>12日(土)の横浜、豊田の試合を中止</u> ・13日(日)の釜石、横浜、東大阪、熊本の試合については、台風通過後の安全性を調査の上、試合開催可否を判断し、原則キックオフ6時間前までに観客に案内 <p>【都】14:00、以下を発表</p> <p>組織委員会の試合中止の発表や、交通機関が計画運休を実施する可能性があることから、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>11日(金)のファンズゾーン多摩会場を中止</u> ・<u>12日(土)のファンズゾーン両会場を中止</u>
10月11日(金)	<p>大型で非常に強い台風は、非常に強い勢力を保ったまま、<u>12日(土)の夕方から夜にかけて、東海地方または関東地方に上陸し</u>、その後、東日本から東北地方を北東に進む見込み。12日(土)から13日(日)にかけて東日本を中心に、西日本から東北地方の広い範囲で猛烈な風が吹き、広い範囲で記録的な大雨となる見込みで、状況によっては、大雨特別警報を発表する可能性あり</p> <p>JR東日本は、台風19号の接近に伴い、<u>12日(土)から13日(日)にかけて首都圏エリアで計画運休を実施すると発表</u>。13日(日)の計画については、12日(土)10:30頃に案内</p>	<p>【都】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファンズゾーン多摩会場の中止 ・ボランティアの一部を除く活動の中止 <p>【都】以下を発表</p> <p>13日(日)のファンズゾーンについて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両会場とも開場時間を12時から18時に変更することを検討 ・多摩会場は調布市グリーンホールのみで開催することを検討 ・<u>13日(日)正午までに公共交通機関の運行状況や台風による被害状況等を踏まえ、判断</u>
10月12日(土)	<p>台風は19時前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸し、その後、<u>関東地方を通過</u></p>	<p>【都】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファンズゾーン両会場の中止 ・ボランティアの全ての活動の中止 <p>【組織委員会】以下を発表</p> <p>13日(日)の4試合の実施可否について、13日(日)早朝に判断</p>
10月13日(日)	<p>台風は、未明に東北地方の東海上に抜け、12時に日本の東で温帯低気圧に変わった</p>	<p>【組織委員会】6:30頃、以下を発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>13日(日)の釜石の試合を中止</u> ・横浜、東大阪、熊本の試合については、遅くともキックオフ6時間前までに可否を判断 <p>【組織委員会】7:15頃、以下を発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>13日(日)の東大阪の試合を開催</u> ・<u>13日(日)の熊本の試合を開催</u> ・横浜の試合については、現在行っている会場の検査が完了次第発表 <p>【組織委員会】10:45頃、以下を発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>13日(日)の横浜(日本対スコットランド)の試合を開催</u> <p>【都】</p> <p>ファンズゾーン両会場の被害状況を確認(多摩会場については、調布市グリーンホールが市民の避難所として開設されていたが、13日(日)早朝には避難所閉所)</p>



		<p>【都】12:00 頃 ファンゾーン両会場に大きな被害が生じていなかったことなどから、13日(日)のファンゾーンについて、以下を発表 なお、ボランティアは一部を除く活動を中止 ・<u>両会場とも18:00に開場(パブリックビューイングは日本対スコットランドのみ)</u> ※会場の準備状況や来場者の待機状況などから、両会場とも16:30過ぎには開場 ・多摩会場は調布市グリーンホールのみで開催</p>
--	--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

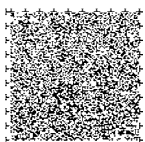
6 大会期間中の職員体制

東京都運営本部においては、RWC 担当職員に加え、東京 2020 大会に運営ノウハウを継承していくため、オリンピック・パラリンピック準備局を中心に、東京 2020 大会の都市運営等に関係する各局（総務局、都市整備局、環境局、福祉保健局、病院経営本部、産業労働局、建設局、港湾局、交通局、水道局、下水道局）も含めた体制を組み、経験を共有できる体制とした。

東京スタジアムでの試合日は、試合会場やファンゾーン等に約 100 人、東京スタジアムで試合がない日のファンゾーン開催日は約 50 人体制とし、大会期間中に運営に携わった都職員は、延べ 1,362 人（うち、関係局から延べ 90 人）となった。

職員体制については、大会期間中の運営の状況に合わせ、日本代表戦や決勝トーナメントなど、来場者が集中する日のファンゾーンの運営体制を強化するなど、適宜、柔軟に見直しを行い、対応した。

また、職員の配置管理に当たっては、直前の変更にも的確かつ迅速に対応できるよう、ポスト管理や勤務シフト管理、サービス管理などのデータを一元管理することで、開催都市業務が確実に運営できる仕組みを構築した。



- RWCL は、各開催都市の試合会場を組織委員会とともに視察・調査し、各試合会場の課題などをまとめた視察報告書を作成した。
- RWCL の視察報告書を踏まえ、都は、組織委員会をはじめとする関係者と調整を重ね、試合会場における施設及び諸室の配置等について定める会場運営計画を策定した。
- 会場運営計画に基づき、大会に向け、東京スタジアムの改修や仮設、芝フィールドの整備等を行った。

1 RWCL による会場視察

試合会場のスペースの活用を検討するため、RWCL は、2016（平成 28）年 4 月、東京スタジアムを含む各開催都市の試合会場を、組織委員会とともに視察・調査した。同年 6 月には、試合会場の課題を組織委員会と開催都市が共有するための視察報告書が、RWCL から提出された。

この視察報告書では、各試合会場に共通する主な事項として、

- ・ 芝フィールドについて、国際的にはハイブリッド芝（天然芝と人工芝を組み合わせることで耐久性を向上させた芝）が耐久性等の面で好ましいと RWCL が認識しており、日本の天然芝の質について RWCL と組織委員会の主導による更なる調査が必要とされたこと
- ・ 照明について、2019 年の放送に関する要件を満たすには、照明の大幅な改良が必要であり、組織委員会は、RWC2015 での照明基準を修正すべきとされたこと
- ・ ホスピタリティ・スペースについて、多くの試合会場で不足しており、特に重要な試合を行う試合会場で大会スポンサー等へのホスピタリティを実施可能にすることが必要であること

などが挙げられた。

また、東京スタジアムに関する主な事項としては、

- ・ 上層スタンドに別途必要な数のメディア席を増設すること
- ・ 大型バス又は自動車の利用者向けに、試合会場のすぐ横に適切な乗降車場が必要なこと及び大会スポンサー等向け駐車スペースも必要なこと
- ・ 武蔵野の森総合スポーツプラザは、ホスピタリティ、国際放送センター、スタッフ用施設等に提供することが期待できること

などが挙げられた。

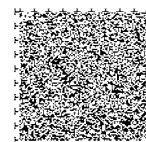
2 会場運営計画の策定

RWCL の視察報告書を踏まえ、都は、組織委員会をはじめとする関係者と試合会場視察や調整を重ね、試合会場のスペースの活用のあり方について、検討を進めた。

2017（平成 29）年 3 月、組織委員会と都は、試合会場における施設及び諸室の配置等について定める会場運営計画を策定した。

この計画では、RWCL による会場視察において課題とされた主な事項について、対応の方向を示した。具体的には、

- ・ メディア席について、メインスタンド上層席に仮設置



- ・ 芝フィールドについて、組織委員会と連携し、ハイブリッド芝と天然芝との比較実験を実施
- ・ 交通輸送について、北側駐車場に観客用シャトルバス乗降場を設置
- ・ ホスピタリティ・スペースについて、メインスタンド側レセプションホールに加え、武蔵野の森総合スポーツプラザのメインアリーナ棟を利用することとした。

3 会場運営計画の更新

2018（平成 30）年 11 月には、大会開催に向けた準備の進展に伴い、会場運営計画の更新を行った。主な内容としては、

- ・ 芝フィールドについて、ハイブリッド芝と天然芝との比較実験の結果、スクラム等の負荷に対して高い耐久性を有するハイブリッド芝を採用
- ・ 競技用照明について、インゴール周辺の照度不足を補うため、スタジアムの屋根下 4 か所に照明を仮設置
- ・ 放送事業者が各競技会場から集まる試合映像等の編集作業等を行う国際放送センターについて、スタジアム北側駐車場の一部を利用
- ・ ホスピタリティ・スペースについて、武蔵野の森総合スポーツプラザのサブアリーナを新たに利用
- ・ 交通輸送について、大会ゲスト等の関係車両のための駐車スペースとして、スタジアム周辺の既存駐車場等を活用することとした。

4 大会に向けた会場整備等

（1）東京スタジアムの改修整備

東京スタジアムは、2000（平成 12）年にしゅん工し、施設の老朽化が進んでいることに加えて、東京 2020 大会の競技会場でもあることなどから、両大会を見据え、以下の改修工事を実施した。

ア Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドラインへの対応

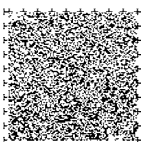
東京 2020 大会に向けたアクセシビリティ・ガイドラインへの対応として進めていた車椅子対応トイレの増設や和式トイレの洋式化など、RWC2019 に向けて前倒しで整備を実施した。

車椅子対応トイレは、車椅子利用者の利便性向上を図るため、観客用を 15 か所から 26 か所へと 11 か所増設した。一般トイレは、和式トイレの洋式化に加え、手すりやオストメイト設備などを設置し、機能分散による車椅子対応トイレの混雑緩和を図った。

また、トイレ出入口には視覚障害者のための触知サインを設置するとともに、トイレ内部にはフラッシュライトを設置し、聴覚障害者に対して、災害発生などの異常事態を伝達できるようにした。



トイレの洋式化完了後の状況



イ 施設老朽化への対応

東京スタジアムは、設備の老朽化が一部進行しており、それら設備の更新を行い、万全の状態で大会を迎えられるようにした。

具体的には、競技用照明、監視カメラ設備、音響設備などの電気設備の更新のほか、特別観覧席及び既存観客席の一部更新を行った。また、競技用照明をLED照明に交換したことで、瞬時の点灯や消灯、調光が可能になったことに加えて、点灯時の消費電力の大幅な削減も可能とした。

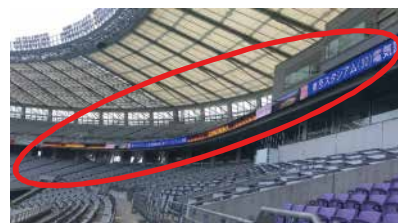


競技用照明のLED化完了後の状況

ウ 施設の機能向上

・ LED リボンビジョン等の設置

施設の機能向上を目的として、スタンドには带状映像装置であるLEDリボンビジョン、コンコースにはデジタルサイネージを新設した。LEDリボンビジョンは高さ約1mの細長い画面であり、メイン側及びバック側の上層スタンドに合わせて約460m新設し、大型映像装置と一体となった多様な演出や情報提供を可能とした。



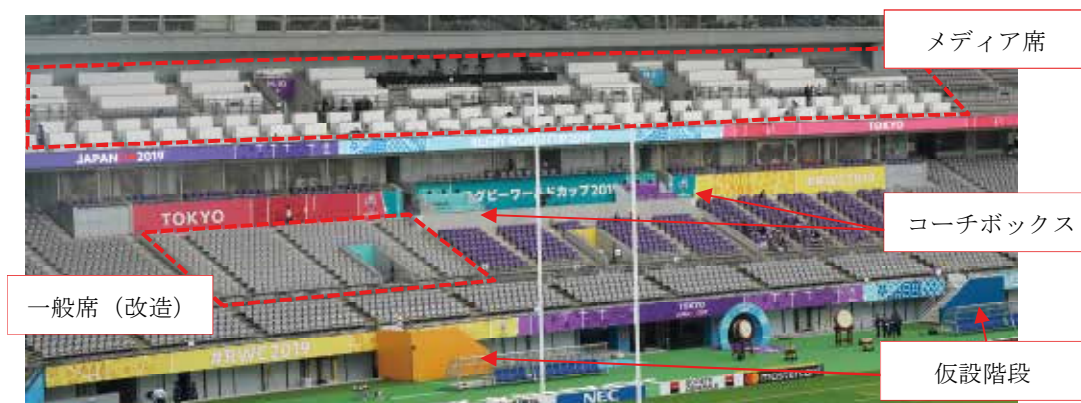
リボンビジョンの点灯状況

・ 高さ17mのゴールポストの設置

大会要件を満たすため、ラグビー用のゴールポストについて、高さ13mから17mへと新調した。

(2) 仮設による整備

RWC2019 固有で必要となる設備等については、会場運営計画に基づき、仮設により整備を行った。

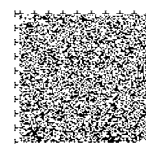


スタンド改造後の状況

ア スタンドの改造

・ 上層スタンドへのメディア席の移設（増設）

メイン側上層スタンドの一般席（約1,400席）を撤去し、メディア席（約500席）



を移設（増設）した。設置に当たっては、一般席を撤去した階段状の部分にデスク作業等を行うための机を設置する必要があったため、綿密な計測を実施し、試作による検証を行った上で設置した。

- ・ 下層スタンドのメディア席を一般席へ改造

上層スタンドへのメディア席の移設に伴い、下層スタンドの既存メディア席（約 160 席）を撤去し、一般席（約 410 席）に改造した。避難動線などを確保した上で、最大限の席数を確保できるよう配置等を工夫するとともに、座席には上層スタンドで撤去したものを活用した。

- ・ コーチボックスの設置

既存のカメラプラットフォームに、コーチボックスを 2 か所設置した。コーチボックス 1 か所あたり、前列と後列が各 4 席の構造となっており、後列についてサイトライン（座席から競技面までの可視線）を確保するため、座席の床面を 35cm 程度嵩上げした。施設の構造上、非常に狭い空間に設置しなければならなかったが、組織委員会と協議を重ね、使い勝手の確保に努めた。

- ・ 仮設階段の設置

スタンド内に設置したコーチボックスとピッチ間を移動できるよう仮設階段を 2 か所設置した。仮設階段の取り付け部であるスタンド最前部には、観客の転落防止のため手すりが設置されており、手すりをまたぐ計画では、周囲の一般席のサイトラインへの影響が大きくなることが考えられた。そのため、手すりを一部撤去することで、階段の高さを抑えるとともに、階段形状についても組織委員会と協議を重ね、サイトラインへの影響が最小限になるよう設置した。

イ 競技用照明の仮設設置

東京スタジアムにおける大会要件の照明の照度基準は、トライなどのプレーが行われるインゴールを含めた全てのフィールド面で水平面照度が 2,500 ルクス以上であることなど、必要な照度基準が細かく定められていた。

そのため、既存照明では不足するインゴール付近の照度を確保するため、スタジアムの屋根に吊り下げる形で仮設の競技用照明を 4 か所設置した。

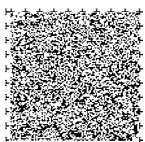


競技用照明（仮設）の設置状況

ウ 仮設トイレの設置

スペクテータープラザを訪れる観客向けに、投てき練習場内に仮設トイレを設置した。仮設トイレは、搬入したユニットハウス内にトイレブース及び便器を取り付け、既存の上下水道設備に接続する工法とし、スペクテータープラザの想定来場者数を基に、男性用トイレ 63 穴、女性用トイレ 44 穴、多目的トイレ 6 穴を設置した。

なお、外国人や障害者が円滑に利用できるよう、壁面にピクトグラムの装飾を施すとともに、多目的トイレについては、スロープやオストメイト設備等を備えた。





仮設トイレ設置状況



多目的トイレ利用の様子

(3) 芝フィールドの整備

2019（令和元）年8月中旬から9月上旬にかけて、スクラム等の負荷に対して高い耐久性を有するハイブリッド芝を施工するとともに、大会要件に基づき、インゴール等への芝フィールドの拡張を行った。

東京スタジアムでは、全試合会場で最多の8試合が行われたが、適切な管理の下、試合中のスクラム等でも大きな損傷が発生せず、組織委員会によるフィールド調査においても、状態が非常に良いとの高評価を受けるなど、大会期間を通じて良好な芝フィールドを提供した。



全試合終了後の芝フィールド状況

(4) その他

ア クリーンベニュー等

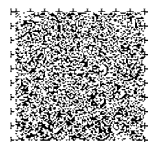
会場内のクリーンベニュー（大会スポンサー以外の商標等のマスキング）及び大会時に不要となる施設内の備品の搬出入を行った。



クリーンベニュー施工（一例）

イ 観客用 Wi-Fi 環境の提供

多くの外国人観戦者の来場を見込み、観客席、コンコース等において、Wi-Fi のアクセスポイントを高密度に設置（合計 466 か所）し、無料でインターネットに接続することができる Wi-Fi 環境を提供した。



- 都は、観客の誰もが安全・円滑に移動する観客輸送を実施する役割を担っている。
- 東京スタジアムは、周辺に既存の鉄道・バス等の公共交通機関が発達している。一方で、飛田給駅への試合前後の観客の集中、多数の大会関係者等車両の往来、高い外国人比率などが事前に見込まれており、それらに適切に対応することが求められた。
- 都は、組織委員会や警視庁、交通事業者、道路管理者、地元3市などとの綿密な調整の上、ラグビーテストマッチ等での調査・検討に基づき、交通輸送計画を策定し、対応を図った。
- 飛田給駅への集中については、観客に対する多様な来場ルートなどの情報発信や交通事業者による特急・準特急の臨時停車や臨時列車の増発、シャトルバスの運行などにより、観客の来場ルートの分散や入退場時間の分散を図った。
- 多数の大会関係者等車両の往来については、試合会場周辺道路の混雑緩和のため、公共交通機関利用の徹底や警視庁との協議の下、スタジアム通りの一般車両の通行を制限する交通規制を実施した。
- 多数の外国人観戦者については、適切なアクセス方法を案内・周知するため、広報は日英併記や英語版をあわせて作成する等により実施した。
- 公共交通機関で来場する車椅子利用者に対しては、「おもいやりシャトルバス」や「おもいやり送迎車両」により対応した。

1 東京スタジアムの会場周辺及びアクセス検討PT

交通輸送において、都は、観客の誰もが安全・円滑に移動する観客輸送等を実施する役割を担っており、組織委員会は、選手・大会関係者の輸送等を担っている。

東京スタジアムは、周辺に既存の鉄道・バス等の公共交通機関が発達している。一方で、飛田給駅への試合前後の観客の集中、多数の大会関係者等車両の往来、高い外国人比率などが事前に見込まれており、それらに適切に対応することが求められた。

大会の成功に向け、東京スタジアムの会場周辺及びアクセスについて、都、組織委員会、警視庁、交通事業者、道路管理者、地元3市などで構成する「東京スタジアムの会場周辺及びアクセス検討プロジェクトチーム（PT）」を2016（平成28）年6月に設置し、課題の整理及び解決に向けた調査検討を行った。

<PTの構成>

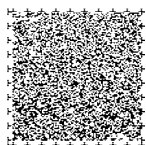
東京都〔オリンピック・パラリンピック準備局、総務局、都市整備局、建設局、警視庁〕、国土交通省、三鷹市、府中市、調布市、

（公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、RWC2019組織委員会、

（一社）東京バス協会、（株）東京スタジアム、京王電鉄（株）、西武鉄道（株）、

小田急バス（株）、京王電鉄バス（株）、中日本高速道路（株）

※ PTの下に、詳細事項を検討するため、ワーキンググループ（WG）を設置（構成団体はPTと同一）



<開催日及び主な内容>

	開催日	主な内容
第1回	2016（平成28）年 6月17日（金）	・大会概要 ・東京スタジアムの交通輸送・会場周辺土地活用に係る課題及び調査内容等
第2回	2016（平成28）年 11月21日（月）	・交通輸送調査結果（2016（平成28）年6月ラグビーテストマッチ等） ・東京スタジアム周辺における交通輸送の課題及び対策の方向性等
第3回	2017（平成29）年 3月10日（金）	・交通輸送需要推計等に基づく交通アクセスの課題及び対策の方向性 ・会場周辺の土地活用等
第4回	2017（平成29）年 6月14日（水）	・交通輸送に係る計画策定に向けたスケジュール及び2017（平成29）年度の取組の方向性 ・2017（平成29）年6月ラグビーテストマッチにおける交通輸送対策等
第5回	2018（平成30）年 2月7日（水）	・交通輸送調査結果（2017（平成29）年6月ラグビーテストマッチ等） ・東京都交通輸送基本計画案等
第6回	2018（平成30）年 10月17日（水）	・東京都交通輸送実施計画（素案） ・2018（平成30）年11月ラグビーテストマッチにおける都の取組等
第7回	2019（平成31）年 2月18日（月）	・2018（平成30）年11月ラグビーテストマッチ報告 ・東京都交通輸送実施計画案 ・東京都セキュリティ・医療計画案等

2 東京都交通輸送基本計画

本計画は、RWC2019 開催基本契約に基づき、組織委員会が策定するガイドラインを踏まえて、開催都市が策定する交通輸送の計画であり、都は、PTにおける議論を経て、2018（平成30）年3月に策定した。

計画の前提として、来場者は一試合当たり約50,000人、関係者等の車両台数は、開幕戦で約1,650台、その他の試合で約1,200～1,500台を想定した。本計画では、この前提に基づき、鉄道、シャトルバス、歩行者誘導、自動車誘導、交通広報などの基本方針を定めている。

3 東京都交通輸送実施計画

基本計画を踏まえつつ、基本計画策定以降に組織委員会から提供されたチケットの国内外申込比率等の情報や、ラグビーテストマッチにおける調査結果等を基にPTで議論を深め、2019（平成31）年3月に策定した。

実施計画では、観客の来場ルートの分散（交通分担率）や入退場時間分布を推計するとともに、試合前後の飛田給駅への観客の集中、多数の大会関係者等による車両来場、約3割と見込まれる外国人への対応などについて、取りまとめた。

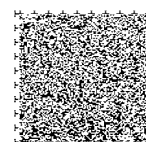
また、その後、組織委員会から提供された情報に基づき、同年8月には、公共交通機関で来場する車椅子利用者への更なる対応を追記するなど、計画を更新した。

<来場者数と外国人比率（推計値）>

来場者数：50,000人 （うち公共交通機関利用者45,000人） 外国人比率：約30%



大会時の様子（メインゲート付近）



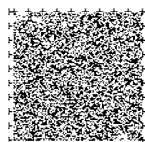
<交通分担率（推計値）>

【入場時】 新宿方面と八王子方面の方面比→ 80% 20%

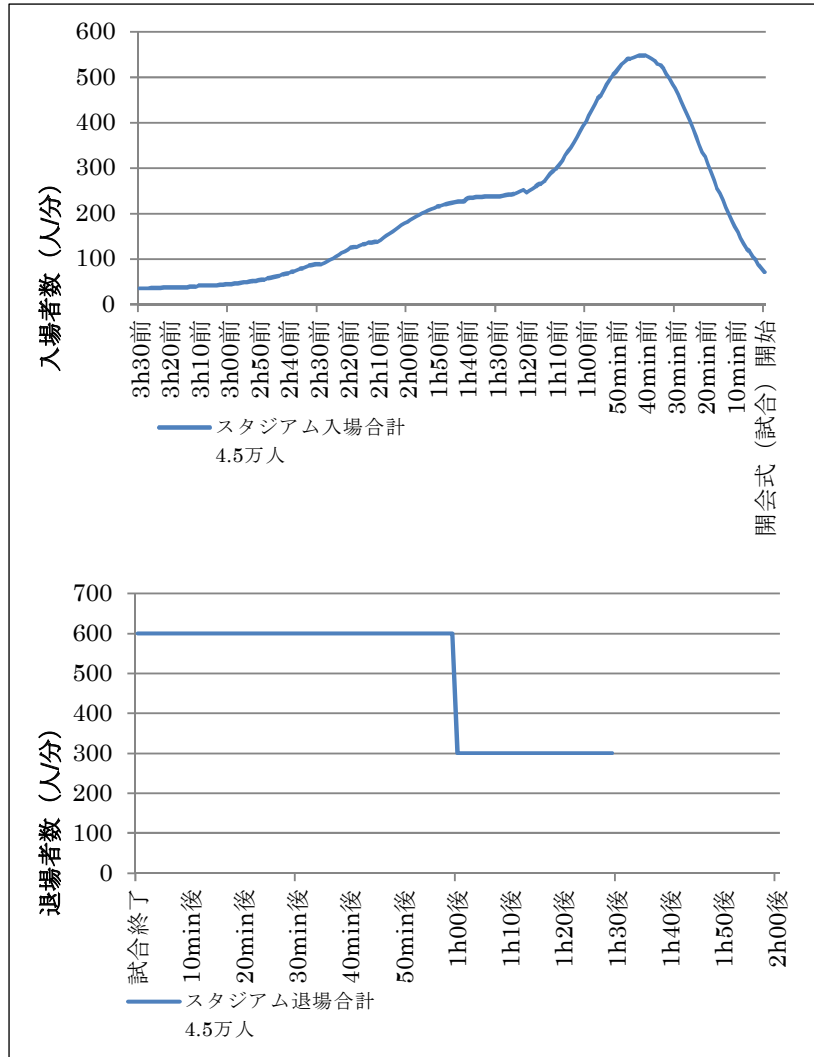
交通手段	起点	交通分担率		推計時の観客数（人）			
				新宿方面から	八王子方面から	計	
鉄道	飛田給駅	86.7%	90.4%	31,200	7,800	39,000	41,700
	西調布駅	1.5%		600	100	700	
	多磨駅	2.2%		1,000		1,000	
二輪車・自転車		2.2%	2.2%	1,000			1,000
タクシー		0.2%	0.2%	100			100
シャトルバス	調布駅	1.8%	6.3%	800			2,800
	多磨駅	0.7%		300			
	武蔵境駅	2.7%		1,200			
	狛江駅	1.1%		500			
その他		0.9%	0.9%	400			400
合計			100.0%	45,000			45,000

【退場時】 新宿方面と八王子方面の方面比→ 80% 20%

交通手段	終点	交通分担率		推計時の観客数（人）			
				新宿方面へ	八王子方面へ	計	
鉄道	飛田給駅	69.8%	84.0%	25,100	6,300	31,400	37,800
	西調布駅	8.4%		3,100	700	3,800	
	多磨駅	5.8%		2,600		2,600	
二輪車・自転車		2.2%	2.2%	1,000			1,000
タクシー		0.7%	0.7%	300			300
シャトルバス	調布駅	4.6%	12.2%	2,100			5,500
	多磨駅	0.7%		300			
	武蔵境駅	3.8%		1,700			
	武蔵小金井駅	1.3%		600			
	狛江駅	1.8%		800			
その他		0.9%	0.9%	400			400
合計			100.0%	45,000			45,000



<観客の入退場時間分布（想定）>



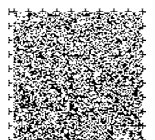
4 観客向け広報

試合前後の飛田給駅への観客の集中を緩和するため、早期来場の促進やシャトルバス利用等の積極的な案内による観客の来場ルートの分散等を図り、試合会場に円滑にアクセスできるよう、観客向け広報を行った。

具体的には、組織委員会のチケットホルダー向けメールマガジンへの情報の掲載や、HP や SNS による情報発信を行った。また、主要交通アクセス拠点（東京駅、品川駅、新宿駅等）や最寄駅（飛田給駅、多磨駅、西調布駅）の案内ブース等において、試合会場へのアクセス方法を周知するパンフレットを配布した。さらに、周辺道路の混雑も予想されたため、公共交通機関による来場を強く呼び掛けた。加えて、スタジアム来場の際に、退場時のシャトルバス利用等の案内チラシを配布した。



組織委員会の HP（日本語、英語）



なお、多数の外国人観戦者の来場が見込まれたため、広報媒体・広報物を日本語及び英語で作成した。



アクセス情報パンフレット
(日本語版／英語版)

シャトルバス周知チラシ (日英両面)

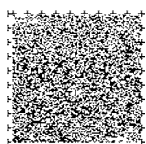
5 一般向け広報

道路や公共交通機関の一般利用者に対して、周辺道路の混雑を緩和するため、交通規制やう回路を案内するとともに、既存の駐車場利用に制約が生じることなど、大会による周辺道路や鉄道等への影響の事前周知を行った。

具体的には、HP や SNS、広報紙による情報発信や、チラシの配布、横断幕・道路交通情報板の掲出、ラジオスポット広告、ポスター掲載等を行った。また、観客の集中が想定される京王線の各駅や車内においては、混乱を回避するため混雑の注意喚起を主としたアナウンスを行った。

広報東京都による交通規制・混雑周知

HP による交通規制・混雑周知





チラシによる交通規制・混雑周知（表／裏）



チラシによる駐車場利用制限周知（表／裏）



横断幕による道路混雑注意喚起

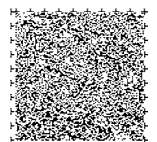


ポスターによる鉄道混雑注意喚起（駅貼り／中吊り）

6 鉄道の運行

試合会場の最寄駅として、飛田給駅、多磨駅、西調布駅を設定し、交通事業者とともに各種対応を実施した。

飛田給駅では、多数の観客が利用し、混雑することが見込まれたため、大会前に、京王電鉄（株）が、飛田給駅の上り線におけるホームドア設置及び構内エレベーター増設等の整備を行った。



また、京王線においては、通常は各駅停車しか停車しない飛田給駅への特急・準特急の臨時停車及び飛田給駅発の臨時列車の増発を実施した。試合前は、試合（開幕戦は開会式）開始約4時間半前から試合開始頃まで、試合終了後は、試合終了から3時間程度、臨時停車を実施した。

観客の退場状況について、都、京王電鉄（株）、組織委員会の3者で情報を共有したことにより、状況に応じた対応が可能となり、予定よりも多く、臨時停車や臨時列車の増発を実施することができた。

また、都は、京王線の臨時ダイヤについて、主要な路線検索サイトに掲載されるよう調整し、試合当日、観客を的確に乗換案内できるように取り組んだ。

なお、西武多摩川線においても、試合終了が遅い時間となる日（9月20日（金）、10月19日（土）及び20日（日））について、臨時列車の増発を実施した。

鉄道輸送の遅延や運休は、観客輸送に大きな影響が生じることから、試合日には、京王電鉄（株）、西武鉄道（株）など試合会場周辺の鉄道事業者に加え、東日本旅客鉄道（株）及び小田急電鉄（株）に対しても、定時及び随時の連絡を行い、最新の観客動向及び電車運行情報を共有した。

特に、京王電鉄（株）では、試合日に駅をはじめとした鉄道施設で警備など増員を行い、異常時へ備えることで、8試合全てにおいて、大幅な遅延や事故は発生しなかった。また、人身事故等が発生した場合の早期運転再開に向け、警視庁との連携を強化した。

試合会場の最寄駅周辺では、鉄道事業者が中心となって観客の誘導や乗車券の案内等を行うとともに、都の警備員・警備スタッフや外国人補助員・障害者補助員及びボランティアが補助した。試合終了後の飛田給駅では、観客が集中した場合には、乗客の安全に配慮し、京王電鉄（株）の判断により、状況に応じて駅階段下における観客流入の制御が行われた。



退場時の飛田給駅での誘導



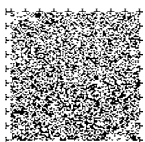
飛田給駅ホームドア

7 シャトルバスの運行

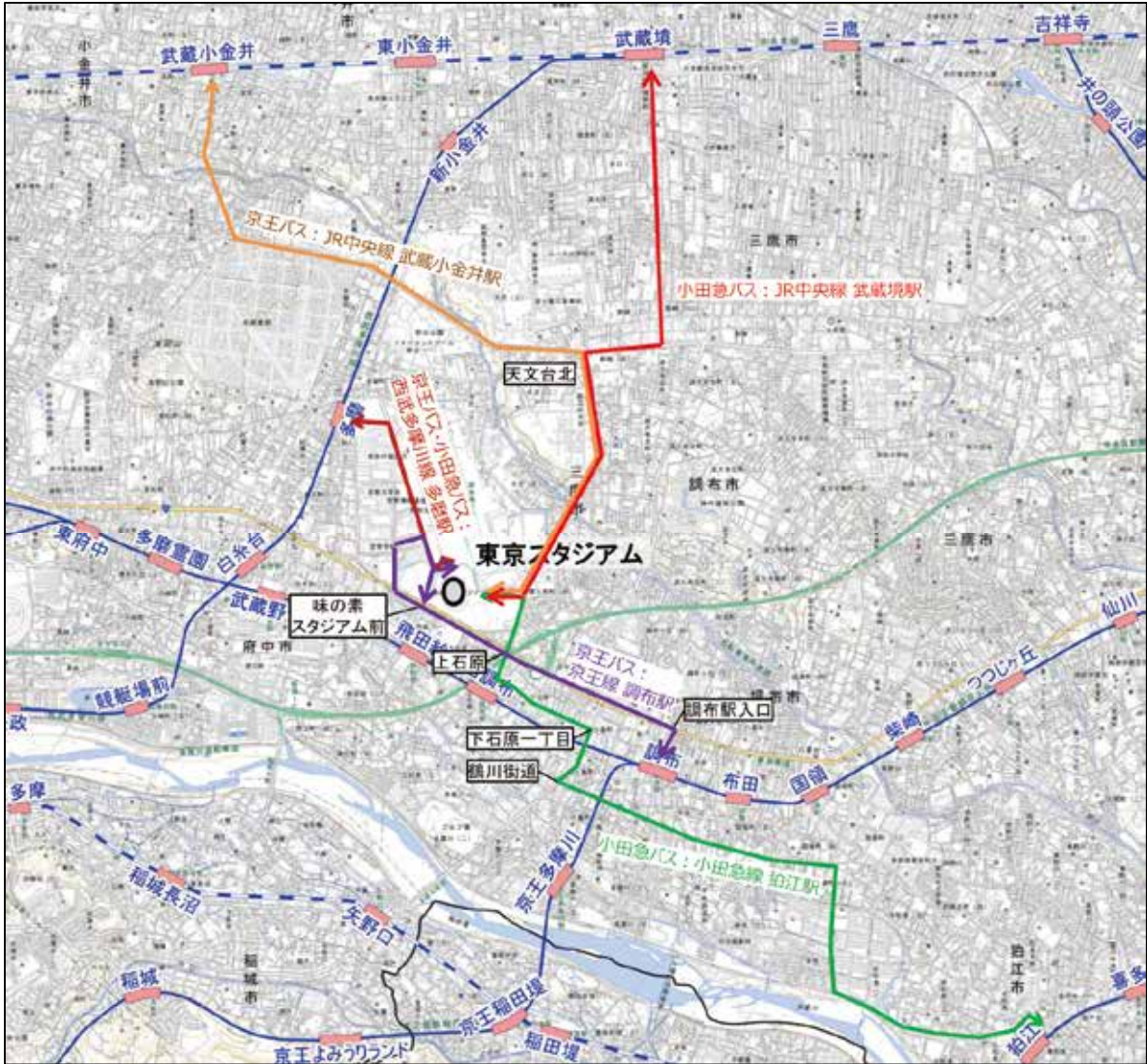
各鉄道路線から試合会場へのアクセスを容易にし、試合前後の飛田給駅の混雑を緩和するため、大会時のシャトルバスを運行した。運行に当たっては、東京スタジアムにおけるJリーグ等開催時の観客の輸送実績を踏まえ、会場周辺において路線バスを運行している小田急バス（株）及び京王電鉄バス（株）が運行主体となり、実施した。

大会時においても通常の路線バスの運行を維持しつつ、より多くの観客を効率的に輸送できるよう、発着駅については、ラグビーテストマッチ等での運行実績を踏まえ、調布駅、多磨駅、武蔵境駅、狛江駅及び武蔵小金井駅（復路のみ）の5駅とした。

なお、運賃については、各バス事業者において、既存の路線バスと同額としている。



<シャトルバスの運行ルート>



運行実績としては、試合前は、試合（開幕戦は開会式）開始約3時間前から試合（開会式）開始頃まで、60～70便程度運行し、試合終了後は、試合終了から40分～1時間程度、70～100便程度運行した。また、利用者は、往路で2,000～3,000人程度で観客数の5～7%程度、復路で4,000～5,000人程度で観客数の9～11%程度となり、概ね、計画どおりの利用となった。

シャトルバス乗降場周辺の運営は、バス事業者が車両の誘導、待機列整理、応援車両の要請等を行い、都の警備員等や外国人補助員・障害者補助員及びボランティアは、待機列整理を補助した。

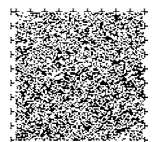
特に、試合終了後は、スタジアム北側広場のバス乗車場に多数の観客が集中することから、都、バス事業者、組織委員会が連携して円滑な案内・誘導を行った。



スタジアム北側広場での誘導
(小田急バス)



スタジアム北側広場での誘導
(京王電鉄バス)



また、シャトルバスの利用を促進するため、試合終了後、試合会場内の大型ビジョンにより案内を実施した。

＜各試合のシャトルバス利用者数（概数）＞

日付		入場時	退場時
9月20日（金） （入場者数 45,745人）	便数（便）	59	85
	利用者数（人）	2,200	4,600
9月21日（土） （入場者数 44,004人）	便数（便）	63	74
	利用者数（人）	2,800	4,000
9月29日（日） （入場者数 47,885人）	便数（便）	69	90
	利用者数（人）	2,900	4,300
10月5日（土） （入場者数 48,185人）	便数（便）	66	91
	利用者数（人）	2,900	4,300
10月6日（日） （入場者数 48,354人）	便数（便）	68	90
	利用者数（人）	3,200	4,700
10月19日（土） （入場者数 48,656人）	便数（便）	66	101
	利用者数（人）	2,700	4,900
10月20日（日） （入場者数 48,831人）	便数（便）	65	104
	利用者数（人）	2,700	5,300
11月1日（金） （入場者数 48,842人）	便数（便）	64	96
	利用者数（人）	2,700	5,100



試合会場内のビジョンによる案内

8 おもてなしイベント

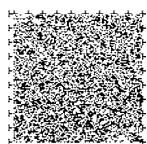
来場者の入退場時間の分散を図るため、組織委員会が飲食ブースやスポンサーブースを展開するスペクテータープラザにおいて、試合開始前から試合終了後までの間、「おもてなしイベント」として、日本刀実演や箸体験等の和体験を提供するとともに、都内観光案内等を実施した（詳細は第6章第1部を参照）。

9 大会時の観客流動

観客数が最も多く、東京会場での最終戦であった2019（令和元）年11月1日（金）の3位決定戦を主なサンプルとして、観客の交通分担率及び入退場時間分布等を調査した。

交通分担率については、次のとおりとなった。

- ・ 鉄道利用は、計画よりも飛田給駅の利用率が高く、多磨駅の利用が少なかった。
- ・ シャトルバスの利用は、おおむね計画どおりであったが、武蔵境駅行きの利用者が計画より多く、ルート分散に一定の成果を上げている。
- ・ 二輪車・自転車利用は、海外や遠方からの観客が過去イベントより多かったことから、計画より少なかった。



次に、入退場時間分布については、計画では、試合前後1時間以内に観客の入退場が集中することが想定されていたが、早期来場の呼び掛けやスペクテータープラザへの集客効果等もあり、前後の時間帯への分散がなされ、混雑の緩和が図られた。

これらの結果から、観客の入退場については、全体として混乱なく行われた。

<11月1日（金）の観客の交通分担率（推計）>

【入場時：39,600人（推計）】

交通手段	起点	交通分担率			
		計画		調査結果（推計）	
鉄道	飛田給駅	86.7%	90.4%	88.9%	91.9%
	西調布駅	1.5%		2.5%	
	多磨駅	2.2%		0.5%	
二輪車・自転車		2.2%	2.2%	1.3%	1.3%
タクシー		0.2%	0.2%	0.0%	0.0%
シャトルバス	調布駅	1.8%	6.3%	2.0%	6.8%
	多磨駅	0.7%		0.8%	
	武蔵境駅	2.7%		3.0%	
	狛江駅	1.1%		1.0%	

【退場時：41,700人（推計）】

交通手段	起点	交通分担率			
		計画		調査結果（推計）	
鉄道	飛田給駅	69.8%	84.0%	78.4%	86.1%
	西調布駅	8.4%		6.0%	
	多磨駅	5.8%		1.7%	
二輪車・自転車		2.2%	2.2%	1.2%	1.2%
タクシー		0.7%	0.7%	0.5%	0.5%
シャトルバス	調布駅	4.6%	12.2%	3.4%	12.2%
	多磨駅	0.7%		0.7%	
	武蔵境駅	3.8%		5.0%	
	武蔵小金井駅	1.3%		1.4%	
	狛江駅	1.8%		1.7%	

※計画値については、その他の方法による来場も見込んでいるため、合計は100%にならない。

※調査日時

入場時 11月1日（金） 14時～19時

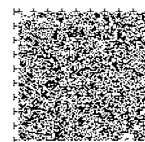
退場時 11月1日（金） 19時半～22時

※調査結果については、調査で推計できた観客について率を算出した。

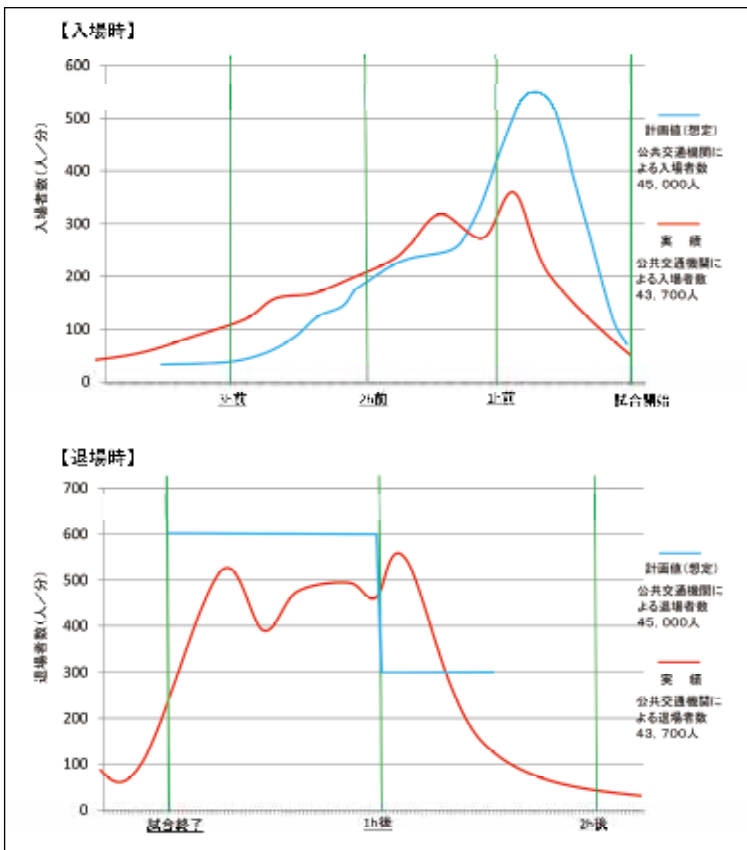
公共交通機関を利用した観客 43,700人（推計）

（うち「調査結果（推計）」に含まれない観客（入場時）4,100人（推計）
（退場時）2,000人（推計）

【要因】 調査時間外の入退場、調布駅からの徒歩による入退場等



<11月1日（金）の観客の入退場時間分布（推計）>



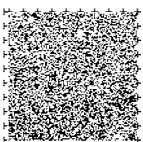
10 交通規制

試合日には多数の関係者等車両が往来し、試合会場周辺道路の混雑が予想されたため、組織委員会が特別に許可する者（車椅子利用者等）以外は、公共交通機関の利用を徹底するとともに、警視庁との協議の下、スタジアム通りへの一般車両の通行を制限する交通規制を実施した。

規制時間は、計画では、試合（開幕戦は開会式）開始4時間前から試合終了3時間後までとしていたが、道路の混雑状況を踏まえ、実際の規制終了時間は、試合終了1時間～1時間30分後であった。

規制の実施に当たっては、通行証を所持する車両のみ通行可能と

<スタジアム周辺における交通規制図>



なることから、HP や SNS、広報紙、チラシ配布等により周辺道路利用者等に事前に広報するとともに、周辺道路上に事前告知の看板や横断幕、道路交通情報板を掲出し、広く事前告知を図った。

また、交通規制は、周辺住民や事業者に対して、多大な影響が及ぶことから、地元3市と調整の上、周辺自治会への説明及び規制エリア内の施設への個別説明を行った。特に規制エリア内の施設に対しては、「地域住民および事業者様向け通行許可証」を事前に交付し、規制時間内でも円滑に通行できるようにすることで、通常の活動を阻害しないよう対応した。

大会当日は、警視庁と連携し、警備員による通行証の確認や適切な車両誘導を行った。

こうした事前及び大会当日の対応により、交通規制に伴う試合会場周辺道路への混乱は生じなかった。



事前告知看板及び迂回路案内看板



事前告知横断幕

11 多言語対応

チケット販売動向から、事前に観客の約3割が外国人と見込まれていたことから、適切な試合会場へのアクセス方法を案内、周知するため、広報は、日英併記や英語版をあわせて作成する等により実施した。

また、組織委員会が策定した誘導サインガイドラインに従い、最寄駅（飛田給駅、多磨駅、西調布駅）から試合会場までの動線（ラストマイル）上には、日・英・ピクトグラムで表記した大会仕様の案内サインを配置した。さらに、交通事業者の協力の下、駅やシャトルバス乗降場で、運行内容や料金を明示するサインを掲出するとともに、駅や車内での英語によるアナウンスを実施した。

その他、外国人補助員や外国語対応可能なボランティアを、駅やシャトルバス乗降場周辺に配置し、外国人観戦者の案内・誘導をサポートした。



外国人補助員による案内



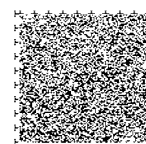
メインゲート付近の様子



観客動線上のサイン



駅及びシャトルバス乗降場のサイン



また、外国人観戦者が円滑に交通機関を利用できるよう、SNS 等の各種広報において、IC 乗車券の利用の呼び掛けも英語で行った。

12 障害者対応

組織委員会からチケット販売状況に基づき提供された情報により、多くの車椅子利用者が公共交通機関で来場することが想定されたため、車椅子利用者に対する輸送手段を強化した。

飛田給駅から来場する車椅子利用者用に、飛田給駅南口とスタジアム西門付近の間を、車椅子で乗車可能なリフト付きマイクロバスで往復輸送する「おもいやりシャトルバス」を事前予約制（無料）により実施した。

試合前は、試合（開幕戦は開会式）開始3時間 30 分から1時間 30 分前頃まで、試合終了後は、試合終了から1時間 30 分後頃まで運行し、8 試合で延べ104 人（予約延べ153 人）が利用した。

また、退場時の混雑を回避できるよう、タクシー事業者の協力の下、車椅子利用者が乗車可能な車両をスタジアム西門付近に待機させ、利用者の指定先へ輸送する「おもいやり送迎車両」を事前予約制（有料）により実施し、8 試合で延べ11 人（予約延べ23 人）が利用した。

なお、海外からの利用者を中心に、申込後の当日キャンセルが一部発生した。



おもいやりシャトルバスの利用状況



おもいやり送迎車両の利用状況

<おもいやりシャトルバス及びおもいやり送迎車両の利用実績（車椅子利用者）>（単位：人）

		9月20日 (金)	9月21日 (土)	9月29日 (日)	10月5日 (土)	10月6日 (日)	10月19日 (土)	10月20日 (日)	11月1日 (金)
おもいやり シャトルバス	往	11 (17)	4 (5)	7 (9)	8 (9)	9 (12)	6 (12)	4 (9)	4 (4)
	復	9 (17)	5 (5)	9 (9)	7 (9)	6 (11)	6 (12)	5 (9)	4 (4)
おもいやり 送迎車両	復	3 (6)	1 (4)	1 (2)	1 (3)	2 (3)	0 (2)	0 (0)	3 (3)

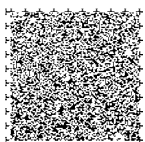
() は予約人数

多磨駅については、西武鉄道(株)及び府中市の協力の下、駅構内とロータリーをバリアフリールートとして結ぶ臨時的な通路を設置することにより、車椅子利用者等が円滑に移動できる動線を確認し、8 試合で延べ5 人が利用した。

その他、最寄駅及びシャトルバス乗降場周辺には障害者補助員を配置し、障害者の交通機関への乗降のサポートや動線案内を行った。



多磨駅臨時通路の利用状況



第4部 試合会場周辺、ラストマイル等の安全・安心の確保

- 都は、試合会場周辺やラストマイル等の安全・安心を確保するため、組織委員会、警視庁、東京消防庁、地元自治体等関係機関との協議を重ね、警備計画を策定した。
- 警備員の配置等による安全かつ円滑な観客誘導やウェアラブルカメラ等の配備による現地状況の的確な把握など、自主警備を行った。
- 武蔵野の森総合スポーツプラザ内に救護スペースを設置し、傷病者への対応を行った。
- 組織委員会と連携し、アンブッシュ・マーケティング防止等に対応した。
- その他、受動喫煙防止の取組や仮設トイレの設置、清掃などを実施し、試合会場周辺やラストマイル等の安全・安心の確保に努めた。

1 警備計画の策定

大会時のセキュリティ・医療対策については、組織委員会が試合会場内を、都が試合会場周辺及びラストマイル等をそれぞれ役割分担し、両者が連携・協力して取り組んだ。

都は、試合会場周辺やラストマイル等の安全・安心を確保するため、ラグビーテストマッチを含む大規模スポーツイベントの検証や実地調査を行うとともに、組織委員会、警視庁、東京消防庁、地元自治体等関係機関との協議を重ね、自主警備、医療救護及び危機管理を主な内容とする警備計画を策定した。

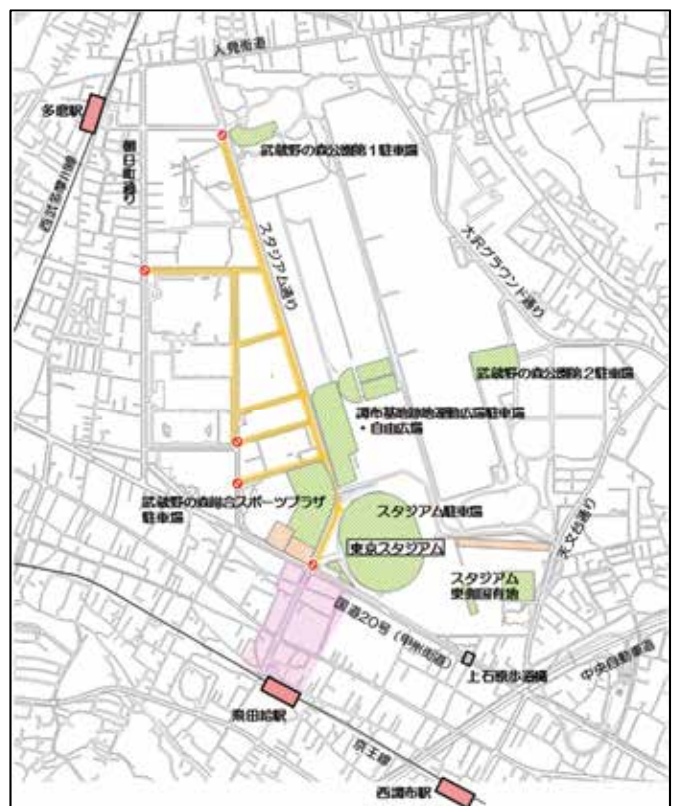
2 自主警備

(1) 安全かつ円滑な誘導の実施

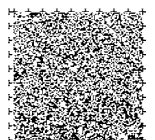
地点ごとの混雑の見込みや当日の状況を踏まえ、警備員等を効果的に配置するとともに、混雑箇所や分岐点等では、外国語翻訳機能が搭載されたトランジスタメガホンや日英併記の案内サインを活用することなどにより、外国人観戦者を含めた観客の安全かつ円滑な移動を確保した。

また、入退場時において、飛田給駅前ロータリーやスタジアム通りの脇道等に長時間滞留し、飲酒する外国人観戦者等がおり、一部、私有地内への進入、路上喫煙、ゴミの放置等も見られたため、警備員等による巡回を強化したほか、警視庁現地警備本部と協議の上、一時的なロードコーンの設

<試合会場周辺図>



トランジスタメガホンを使用する警備員
(ペDESTリアンデッキ)



置、警備員の追加配置による脇道への進入抑制を実施した。



日英併記の案内サインを持つ警備スタッフ
(東京スタジアム西門付近)



ロードコーンによる進入抑制
(スタジアム付近スポーツショップ前)

(2) 現地情報の的確な把握

主要箇所には配置している警備員や突発対応を行う警備員にウェアラブルカメラを配備するなど、混雑エリアの滞留状況や事案発生時の現地状況をリアルタイムで的確に把握できるようにした。ウェアラブルカメラの映像を東京都運営本部内のモニターで確認し、運営本部から現場警備員に個別具体的な指示や、警備員の追加配置等の判断を迅速に行うことで、各現場で発生した様々な事案への確実な対応と警備員等の効果的な配置を行った。



ウェアラブルカメラを装着した警備員



東京都運営本部モニター

(3) 警備資機材の効果的な活用

警備員等による案内誘導に加え、パイプ柵やロードコーン、コーンバー等を活用し、観客の乱横断防止、迷惑駐車防止、動線分離の徹底を図った。

スタジアム南側の甲州街道については、スタジアム前交差点付近から上石原歩道橋の区間の北側歩道上にパイプ柵等を設置した(総設置距離約 500m)ほか、警備員等を配置し、観客の乱横断を抑制するとともに、タクシー、自家用車による送迎に伴う路上での乗降(一時停車)を制限することで、事故・渋滞の防止に努めた。

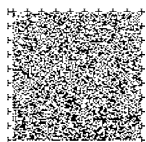
また、スタジアム前交差点の西側においても、甲州街道を横断する観客が見られたため、警視庁と連携の下、パイプ柵の再配置等により適切に対応した。



歩道に設置したパイプ柵
(甲州街道)



パイプ柵設置箇所



主要な観客動線となる飛田給駅前ロータリーからスタジアム前歩道橋までの通りについては、迷惑駐車防止のため、車道側にロードコーンを設置し、車の滞留抑制を図った。

また、反対動線や生活動線を確保するため、歩道上に、ロードコーン及びコーンバーを設置し、動線の錯綜の回避に努めた。



ロードコーン設置状況（飛田給駅付近）

（４）警視庁との連携

開催都市連携会議や警備会議等の各会議での調整と平行して、警備計画策定段階から、警備員の配置位置や警備資機材の設置をはじめとする自主警備の体制について、警視庁と打合せを重ね、助言・支援を受けるとともに、交通規制や大会時の連携方法等について協議を行った。

試合日には、スタジアム内の警視庁現地警備本部と緊密に連携し、観客の入退場状況を踏まえ、案内誘導の人員配置、現場広報を協力して迅速に実施するなど、事故を未然に防止した。

また、大会直前期から大会開催期間を通じて、各試合日の個別地点ごとの滞留状況や課題を共有し、誘導方法、連携体制の具体的な運用の改善に努めた。

3 医療救護

試合会場周辺での傷病者の発生に備え、試合会場及びラストマイルに近接する武蔵野の森総合スポーツプラザ内に救護スペースを設置し、スタジアムの開場1時間前から閉場後まで、病院経営本部の協力を得て、都立病院の医師、看護師を配置した。

医師等による経過観察、医療機関への移送の判断、応急手当等の実施、安静にできる場所の提供を行い、傷病者の救護を迅速・的確に行うとともに、軽症者の安易な救急受診や救急搬送を回避することで、医療機関、救急搬送体制への負荷軽減を図った。

なお、救急搬送に当たっては、119番通報に加え、スタジアム内の東京消防庁現地警戒本部と直接、情報共有を行うことにより、迅速な搬送に努めた。

また、体調回復のための椅子、飲料水等を提供する一時休憩所を、飛田給駅をはじめとした試合会場の最寄駅周辺に設置した。



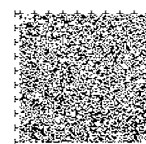
救護スペースの設置状況



救護対応の様子
（飛田給駅付近飲食店前）

<救護対応実績>

救護対応件数	15件
救急搬送件数	5件
一時休憩所利用件数	0件



4 危機管理

警備計画では、試合会場及びラストマイルにおいて、自然災害やテロ行為などの危機が発生した場合に警備員がとるべき対応について定めた。具体的には、巡回による警戒、車両突入防止資機材の設置等によるテロの防止、会場が被災した場合における施設北側の広域避難場所等への円滑な誘導、電車遅延等の発生時における迅速な情報収集、発信による混乱の抑制などについて対応方法を取りまとめ、有事に備えた準備を行った。

5 アンブッシュ・マーケティングの防止

組織委員会と連携し、ダフ屋行為、無許可の販売行為、無許可の広告の掲示等を把握するため、試合日等に会場周辺の巡回を実施した。販売行為等が観客動線を阻害している場合の自粛要請、法令に反した広告に対する地元自治体への迅速な連絡などにより、アンブッシュ・マーケティングを防止又は中止させる組織委員会の活動に積極的に協力した。

6 その他個別事象への対応

(1) 受動喫煙防止の取組

調布市では、2019（令和元）年7月に「調布市受動喫煙防止条例」が施行され、駅周辺は「路上等喫煙禁止区域」に指定された。

都は、市及び駅周辺店舗の協力も得て、禁止区域に関するポスターやピクトグラムの貼付による周知を行った。また、警備員等が巡回し、喫煙禁止区域内での喫煙を行わないよう呼び掛けを行うとともに、路上喫煙を行っている観客に対しては、試合会場内に設置してある喫煙スペースを案内した。



禁止区域に関するポスター
(飛田給駅前)

(2) 仮設トイレ等の設置及び周知

RWC では、観客によるビールの消費量が多いと言われていることから、通常の東京スタジアムでのイベント以上にトイレの需要を見込み、飛田給駅及び多磨駅からのラストマイル上に仮設トイレを12基設置した。

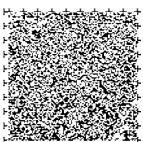
歩行者動線やペDESTリアンデッキに日英併記の仮設トイレの案内サインを設置するとともに、飛田給駅前や近隣の西町公園等の既存の公衆トイレの周知に努めた。



仮設トイレの利用状況



ペDESTリアンデッキの下にある
仮設トイレの場所を示すサイン



(3) 清掃

施設管理者や地元自治体等と調整し、最寄駅である飛田給駅、多磨駅、西調布駅から会場までの歩行者動線を中心に、ラストマイルの清掃を行った。

入退場時に路上で飲食し、滞留する観客が多く、特に試合開始前におけるビン・缶の路上投棄が目立ったことから、当初予定していた試合終了後の清掃に加え、2試合目以降は試合開始前及び試合中にも清掃を行った。また、試合日の翌朝についても、歩行者動線の清掃実施状況を点検し、ごみの回収を行うなど、良好な環境の維持に努めた。

また、環境との共生に配慮した大会の実現に向けた取組として、シャトルバス乗降場周辺でのごみ回収において、ごみの分別促進のためのスタッフを配置した。



ラストマイル清掃の様子
(飛田給駅周辺)



ごみ分別促進スタッフの活動 (シャトルバス乗降場付近)



(4) 託児サービス、授乳・おむつ交換スペースの設置

武蔵野の森総合スポーツプラザ内に観客向けの託児所 (事前予約制) 及び授乳・おむつ交換スペースを設置した。

<利用者数>

日付	託児サービス	授乳・おむつ交換スペース
9月20日(金)	14	6
9月21日(土)	7	13
9月29日(日)	8	11
10月5日(土)	4	6
10月6日(日)	12	21
10月19日(土)	6	3
10月20日(日)	9	4
11月1日(金)	6	3
合計	66	67



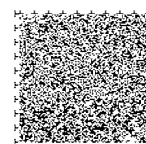
託児サービスの様子

7 持込禁止物の周知

飲食物や長傘など試合会場への持込禁止物を周知するため、「広報東京都」に掲載するとともに、試合会場の最寄駅周辺に立て看板を設置した。大会開始後(9月23日(月・祝))、組織委員会により、食品について持込禁止物の規制緩和がされたが、看板を修正するなど速やかに対応し、大きな混乱は生じなかった。



飛田給駅前に設置した看板



- 大会期間中に出場チームが練習及び調整を行うために滞在する公認チームキャンプ地に、都内では、立候補した3市（武蔵野市、府中市、町田市）に加え、組織委員会が独自に追加確保した3か所（東京都A、B、C）が決定した。
- 各出場チームが今大会で最初に滞在する公認チームキャンプ地では、代表チームを招待し、チームウェルカムセレモニーが行われた。都内では、日本代表とニュージーランド代表のセレモニーが行われた。
- 大会期間中、各公認チームキャンプ地では、滞在チームと地域住民が交流する機会が設けられた。

1 公認チームキャンプ地の誘致

大会期間中に出場チームが練習及び調整を行うために滞在する公認チームキャンプ地は、組織委員会が選定プロセスの一元管理を行い、2016（平成28）年8月から12月まで、国内の自治体からの応募を受け付けた。

都は、都内区市町村に対して適宜適切に情報提供するなど、きめ細かく対応し、都内からは、武蔵野市、府中市、町田市が立候補した。

公認チームキャンプ地自治体は、提供する施設について、RWCLや組織委員会が定める水準を確保する必要があることから、立候補した3市は必要な施設整備を実施した。なお、都は各区市町村による誘致の促進を目的に、補助金による支援を実施した。

<都内公認チームキャンプ地自治体による主な施設整備>

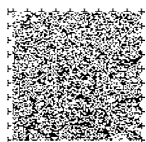
区市町村名	整備内容
武蔵野市	諸室改修、ラグビーゴール基礎設置、芝生改良
府中市	芝生改良、フェンス設置、夜間照明設置
町田市	ラグビーゴール基礎設置

2 公認チームキャンプ地の決定等

2019（平成31）年3月、組織委員会が全国で55件61自治体の公認チームキャンプ地を決定し、公表した。

都内では、立候補した3市に加え、組織委員会が独自に試合会場周辺で追加確保した3か所（東京都A、B、C）が決定し、大会期間中は、次表のとおり出場チームが滞在した。

※セキュリティの関係から、大会終了まで各施設名は公表されず、自治体名のみ公表された。



＜都内の公認チームキャンプ地＞

		立候補した自治体			組織委員会が追加確保したキャンプ地		
		武蔵野市	府中市	町田市	東京都 A	東京都 B	東京都 C
トレーニング施設	グラウンド	武蔵野陸上競技場	府中朝日フットボールパーク	キャノンスポーツパーク	アークス浦安パーク	秩父宮ラグビー場	辰巳の森海浜公園ラグビー練習場
	屋内練習場	武蔵野総合体育館	府中市生涯学習センター体育室	サン町田旭体育館	キャノン下丸子体育館	秩父宮ラグビー場 (仮設)	港区スポーツセンター
	ジム	武蔵野総合体育館	府中朝日フットボールパーク	キャノンスポーツパーク	AP品川アネックス	秩父宮ラグビー場	辰巳の森海浜公園ラグビー練習場 (仮設)
	プール	武蔵野温水プール	府中市生涯学習センタープール	町田市立鶴川中学校	品川プリンスホテル/グランドプリンスホテル新高輪	上智大学プール/ホテルニューオータニ	港区スポーツセンター/コンラッド東京
宿泊施設	ヒルトン東京	京王プラザホテル	京王プラザホテル多摩	ザ・プリンスさくらタワー東京	ホテルニューオータニ	コンラッド東京	
滞在チーム	ロシア (9/17-9/22)	フランス (9/18-9/23) イングランド (9/29-10/9) ①10/29-11/1 南アフリカ (①10/14-10/26)	ナミビア (9/29-10/6)	スコットランド (9/17-9/23)	日本 (9/16-9/22) ①10/6-10/21 ウェールズ (9/24-9/30) ①10/21-11/2 アルゼンチン (9/30-10/6)	ニュージーランド (9/14-9/24) ①10/11-11/2 日本 (9/29-10/3) オーストラリア (10/6-10/9)	

①：決勝トーナメント

なお、東京都Cとして内定した辰巳の森海浜公園ラグビー練習場は、都が所管する施設であり、港湾局の協力の下、RWC2019の公認チームキャンプ地としてふさわしい水準を確保することを目的に、芝生の張替えなどグラウンド整備を行った。

また、公認チームキャンプ地においては、滞在するチームを支援する「公認チームキャンプ地コーディネーター」を選任し、トレーニング施設の使用等について支援することとなっている。都は、(公財)東京都スポーツ文化事業団の協力の下、東京都Cのコーディネーターを選任し、トレーニング施設の使用に伴う施設との連絡調整や練習時の立会いなど、チームに良好な練習環境等を提供した。



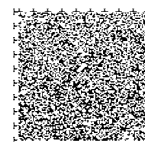
練習風景



辰巳の森海浜公園ラグビー練習場

3 チームウェルカムセレモニー

RWC2019 出場チームを招待し、日々の努力や出場の栄誉を称え、大会での活躍を祈念するチームウェルカムセレモニーが、組織委員会の主催、各公認チームキャンプ地自治体の運営協力の下、開催された。



セレモニーは、各出場チームが国内で最初に滞在する公認チームキャンプ地自治体で実施することとなっており、都内では、日本代表とニュージーランド代表のセレモニーが行われた。参加メダルやキャップの贈呈、だるま目入れ式等を行い、各チームとキャンプ地を結ぶ機会となった。

- ・ 日本代表
日程：2019（令和元）年9月13日（金）
場所：都庁第一本庁舎南展望室



日本代表

- ・ ニュージーランド代表
日程：2019（令和元）年9月14日（土）
場所：増上寺（港区）



ニュージーランド代表

4 地域交流イベント

大会期間中、各公認チームキャンプ地では、滞在チームと地域住民が交流する機会が設けられた。

- ・ 東京都
日程：2019（令和元）年9月21日（土）
場所：秩父宮ラグビー場（港区）
協力：港区、江東区
参加者：日本代表選手、港区・江東区内小中学生 100人
内容：公開練習の見学、質問コーナー、写真撮影等

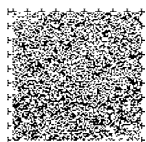


サインに応じる日本代表選手

- ・ 武蔵野市
日程：2019（令和元）年9月22日（日）
場所：武蔵野陸上競技場
参加者：ロシア代表選手、ラグビースクール児童約60人
内容：公開練習の見学、ヘッドコーチからのレクチャー、応援寄せ書き国旗等記念品贈呈、写真撮影



集合写真



- 府中市

日程①：2019（令和元）年9月22日（日）

場 所：けやき並木通り

協 力：府中市芸術文化協会

参加者：フランス代表選手、市民約2,000人等

内 容：府中市主催イベント「フランスウィーク」における伝統文化（太鼓・生け花等）体験を通じた交流等



伝統文化体験

日程②：2019（令和元）年10月1日（火）

場 所：府中朝日フットボールパーク

参加者：イングランド代表選手、市民約600人等

内 容：公開練習の見学、交流会（写真撮影・サイン等）



交流会

日程③：2019（令和元）年11月1日（金）

場 所：府中朝日フットボールパーク

協 力：サントリーサンゴリアス

参加者：イングランド代表ヘッドコーチ、
都立府中西高校ラグビー部約30人等

内 容：ラグビークリニックの実施



ラグビークリニック

- 町田市

日程①：2019（令和元）年10月1日（火）

場 所：キャノンスポーツパーク

参加者：ナミビア代表選手、市民約500人

内 容：公開練習の見学



公開練習

日程②：2019（令和元）年10月1日（火）

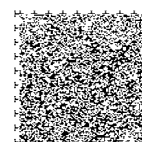
場 所：キャノンスポーツパーク

参加者：ナミビア代表選手、小学生・中学生約130人

内 容：ラグビー体験



ラグビー体験



日程③：2019（令和元）年10月2日（水）
場 所：小野路宿里山交流館
参加者：ナミビア代表選手、市民約50人
内 容：日本文化体験（茶道体験、小野路うどん試食等）



茶道体験

日程④：2019（令和元）年10月4日（金）
場 所：町田リス園
参加者：ナミビア代表選手、リス園来訪者等約200人
内 容：リスへの餌やり、巣箱への絵付け等



リスへの餌やり

